

# 復活の主

---

シリーズ～続 福音の力～

2021/4/11

# ルカ福音書24章13～35節

---

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。

「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。

そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、

イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。

# 二人の弟子たち

---

- イエス様が復活された日の出来事
  - 「ちょうどこの日」とは婦人たちが空の墓に行った日
- エマオという町に向かっていた二人
  - 「エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村」> 約11km
- イエス様の死に失望しエルサレムから逃げた
  - 一人の名はクレオパ
  - 12弟子ではないがイエス様の近くにいた弟子
  - 身の危険を感じてエルサレムを離れようとした

# 謎の旅人

---

- イエス様が近づき彼らと
  - 「イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた」
- 彼らはイエス様だと分からなかった
  - 「二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。」
  - 聖霊によってなのか、彼らが気付かなかったのか？
- お茶目な？ 質問
  - 「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」
- 「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」



# イエス様に期待していたが...

---

- 預言者だと思っていた
  - 「この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある**預言者**でした。」
- イスラエルを救ってくれると期待していた
  - 「わたしたちは、あの方こそ**イスラエル**を解放してくださると望みをかけていました。」
- イエス様の復活の話を聞いていた！
  - 「婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『**イエスは生きておられる**』と告げたと言います。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、**あの方は見当たりませんでした。**」

# 嘆く旅人

---

- 嘆く謎の旅人
  - 「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」
- メシアについて説明する謎の旅人
  - 「そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。」

# 先を急ぐ謎の旅人

---

- 二人から離れていこうとする旅人
  - 「イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった」
- 旅人を引き留める二人の弟子
  - 「『一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから』と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。」
- パンを裂く旅人
  - 「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。」

# イエス様だと気付く二人

---

- イエス様だと気付くが…
  - 「すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。」
- 振り返ってみると…
  - 「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」
- 急いでエルサレムに戻った二人
  - 「時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると」
  - 「二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。」

# 復活の主は

私たちに語られる

聖書を通して

「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち」と言われぬように

「この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。」ローマ1:2-3

# 復活の主は

## 私たちと共に食される

私たちとの親しい交わりを求めておられる

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。  
だれかわたしを聞いて戸を開ける者があ  
れば、わたしは中に入ってその者と共に食事  
をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであ  
ろう。」黙示録3:20

# 復活の主は

私たちの心を燃やされる

私たちが意気消沈することを知っておられる  
「キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたち  
にも及んでいるのと同じように、わたしたちの  
受ける慰めもキリストによって満ちあふれてい  
るからです。」コリント二 1:5

# 復活の主は

私たちを立ち上がらせる

死にさえ打ち勝たれた主は、私たちに立ち向かう勇気を与えて下さる

「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

ルカ22:32



# 復活の主は

私たちと共に歩まれる

私たちが気付いていようといまいと  
「暗い顔をして」現実から逃げ出したくなった  
時も

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」マタイ28:20